

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 瀬戸染付工芸館【愛知・瀬戸】(<https://www.seto-cul.jp/sometsuke/kikaku.html>)

2024年12月7日(土)～3月23日(日)

瀬戸染付工芸館 企画展 瀬戸染付 草花の表現

瀬戸染付の絵には草花が描かれたものが数多くあります。それは身近な題材を、まるで花摘みのようにスケッチ収集されたアイデアから、絵付け師が一つ一つ表現したい部分を特徴的に切り取り、器に投影された作品となっています。草花を中心に描かれた収集品は千点以上になり多岐にわたります。今回、当館で過去に展示されたことのない作品を中心に紹介したいと思います。



2. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波】(<https://www.mcart.jp/exhibition/e3604/>)

1月2日(木)～2月28日(金)

特別展: TAMBA NOW+ 2025 一変わらぬ風景、進化するやきもの—

兵庫県丹波篠山市では、平安時代末期から今田町立杭を中心に生産され続けている丹波焼や、江戸時代後期に篠山城下で操業した王地山焼など、古くからやきものが盛んにつくられてきました。現在もこの地では、地元の作家に加えて、自然と豊かな風土を求めて各地から作り手が集まって作陶しています。昔ながらの技術を受け継ぐ者、それを革新する者、また新たに創造する者など、それぞれの技法と表現で挑んでいます。兵庫陶芸美術館では、開館10周年を迎えた2015年より、5年を節目として、丹波篠山市域で活躍している作家を紹介する「TAMBA NOW+」を開催してきました。



本展はその第3弾として、総勢94名の近作を紹介します。丹波で生まれた多様なやきものの「今」をお楽しみください。

3. MOA美術館【静岡・熱海】(<https://www.moaart.or.jp/events/bestcollection2025/>)

1月24日(月)～3月11日(火)

企画展: 名品展 令和7年1月24日(金)～3月11日(火)

MOA美術館のコレクションは、創立者・岡田茂吉(1882～1955)が蒐集した日本・中国をはじめとする東洋美術を中心に構成されています。その内容は、絵画、書跡、彫刻、工芸等、多岐にわたり、各時代の美術文化を語る上で欠くことのできない作品を含んでいます。本展では、「紅白梅図屏風」をはじめ京焼の大成者・野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」、三大手鑑の一つとして著名な手鑑「翰墨城」の国宝3件の同時公開に加え、コレクションの各ジャンルを代表する名品を精選して展覧します。梅花咲き誇る2月、隣接する瑞雲郷梅園とともにぜひご鑑賞ください。

